

科目：総合問題

●問題冊子 10 ページ：問題文 B 10 行目

(誤) There is no evidence of ...

(正) There is no evidence that ...

以上

総合問題 (問題)

2025年度

〈2025 R07197011〉

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～14ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	<input checked="" type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い
マークを消す時	<input type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い

5. 記述解答用紙記入上の注意
 - (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
 - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
8. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
9. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I 問題文 A・B・Cを読んで、下記の問い1～7に答えよ。(45点)

問題文 A

戦争の定義に暴力の行使が含まれ、破壊をとまなう以上、それがコストを生むのは否定できない。戦争による破壊は重慶空爆や南京事件、真珠湾攻撃、東京・神戸などへの空襲、広島・長崎への原爆投下など、仮に日本が加害と被害に関わったものに限って例をあげたとしてもきりが無い。

戦争が相手を物理的に傷つける行為である以上、攻撃を効果的に行って最終的に勝利を得ても相手は何らかの反撃をするために損害は免れず、物理的なコストをもたらす。外交交渉を行い、同じ目標を達成していればそのコストは生じなかったはずである。

このほか、戦争の破壊以外にも戦争にかかわるコストは社会的に無視しがたい負担をもたらす。破壊するための道具として軍事力を備えて保有すること、それを使う軍隊に一定数の健康な男女に従事させることは社会にとって無視しえない負担となる。その健康な男女がほかの労働に従事し、農作物・工業製品の生産、芸術や文化活動などに力を発揮すれば、どれだけ社会は豊かになるだろう。なお、これを経済学では機会費用という言葉でとらえ、ある特定の条件下で、選択しなかったものから得られていたはずの価値のことを指す。

政府が他の政策を実行しないで戦争を行うことも機会費用の意味で損失を生む。たとえば、①

軍隊を用いた戦争も、あるいは軍隊という存在の拡充も、機会費用の面で社会とその構成者である国民にとって無視できないコストになる。

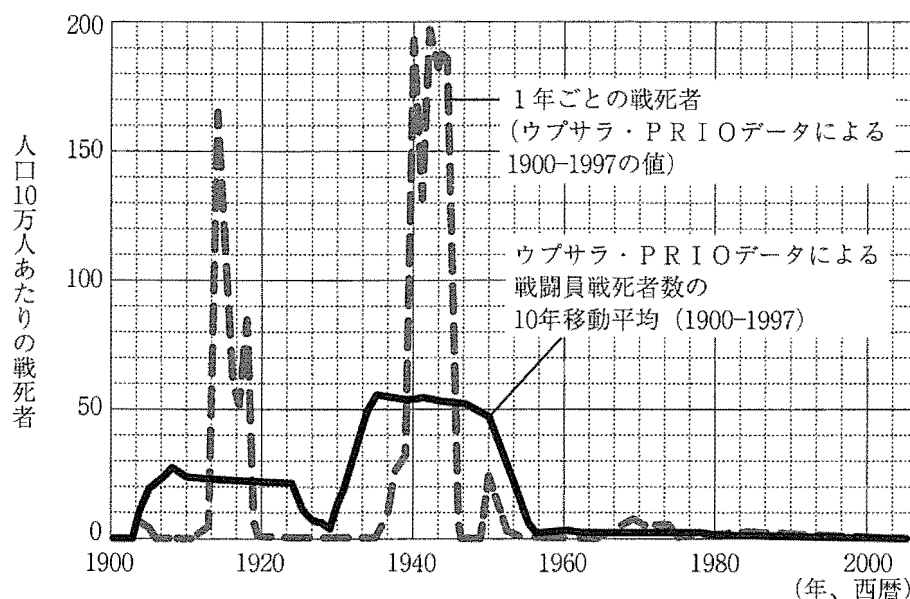
戦争は利益を生むという議論があるかもしれない。要するに、戦争があるからこそ得をする人がいて、その人々が戦争を好むという理解である。たしかに、武器を作る人、売る人にとって戦争は必要かもしれない。

しかし、そんな彼らであっても、実際の戦争で起こる破壊コストからは逃れられない。戦時に武器を作り、輸送する過程で彼らが攻撃を受けることがある。また武器を作る工場や設備は当事国の間ではまず狙われる格好のターゲットであり、破壊されやすい。敵国が補給を断とうとしてその工場や拠点が重点的な攻撃対象になる危険性が高いことは、過去のいくつもの事例が教えてくれる。場合によっては、戦争の破壊コストをもっとも負担するのは軍需産業かもしれない。

これに対して、話し合い（交渉）は物理的な破壊を生まない。戦争には事後的に負担せねばならない破壊のコストがある以上、そして交渉は互いに妥協点を見出して価値あるものを分配することを可能にするメカニズムであるのだから戦争に比べて交渉は効率的な問題解決手段と理解できる。

次に、戦争を数えることができるとして、一体どれだけの戦争が起きてきたのかを「見える化」してみたい。オックスフォード大学の研究者が提供するウェブページ (<https://ourworldindata.org/about>) によると、ウプサラ・PRIOのデータセットに基づいた場合、1900年以降の戦争データの分布は図1のように整理できる。縦軸には戦争による死者数の割合（10万人当たり）がとられている。

図1 1900年以降の戦死者の分布



※WEB掲載に際し、以下のとおり

出典を追記しております。

Uppsala Conflict Data Program (2024); Peace Research Institute Oslo (2017); Population based on various sources (2024) – with minor processing by Our World in Data
上記をもとに、早稲田大学教員が当該入試問題用にオリジナルで作成したものです。

出典) <https://ourworldindata.org/war-and-peace>

注1) 「ウプサラ・PRIO」は北欧のスウェーデン・ウプサラ大学とノルウェーのPRIO（オスロ平和研究所）が共同で構築しているデータセットである。

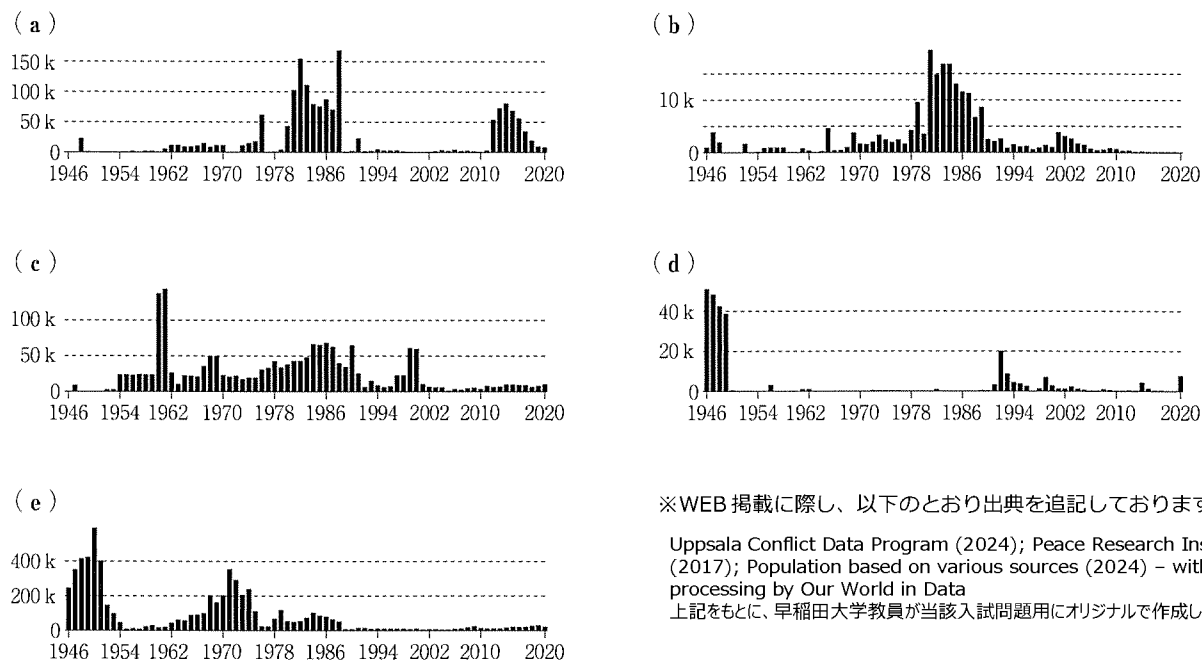
注2) 移動平均とは一定期間を定め、時間を単位1つ分（たとえば、年）ずつずらしながら、平均値を計算していくものである。

ここからわかるのは、戦争が違法化されている「われわれの世界」の特徴である。

戦争そのものの数とそれによる死者の数と割合は、確実に1950年代以降減っている事実がある。1900年から2000年まで、実線は10万人当たりの戦死者数について10年の移動平均の値を示しているが、1950年代以降ほぼ戦争がなくなり、その死者数もゼロに近くなっている。世界人口の増加も考慮する必要があるが、戦争の数は減り、その死者数も前と比べて減っているのは明らかである。

1950年代以降に戦争が減っているのは、①戦争はきわめてコストが高いという記憶が多くの人に共有されたからではなかろうか。国連憲章第2条にある「すべての加盟国は、その国際関係において、武力による威嚇又は武力の行使を、いかなる国の領土保全又は政治的独立に対するものも、また、国際連合の目的と両立しない他のいかなる方法によるものも慎まなければならない」という誓約は、第二次世界大戦の反省による。戦争の違法化は、その減少という形でデータの傾向に表れているのである。

図2 5地域における戦死者数（1946～2020年）



※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

Uppsala Conflict Data Program (2024); Peace Research Institute Oslo (2017); Population based on various sources (2024) – with minor processing by Our World in Data
上記をもとに、早稲田大学教員が当該入試問題用にオリジナルで作成したものです。

出典) <https://ourworldindata.org/war-and-peace>

注1) ほとんどの場合、戦死者のデータは戦闘が起きた地域での死者として数えられている。一部は出身地域の戦死者として数えられている。

注2) この図ではアフガニスタンはアジア・オセアニアに分類されている。

注3) グラフの横軸は西暦年、縦軸は戦死者数。kは1000を意味している。

(2)図2の(a)～(e)は、1946年から2020年までの以下の5つの地域の戦死者数を1年ごとに図示したグラフである。アジア・オセアニアでは、中国（国共）内戦と朝鮮戦争、ベトナム戦争、アメリカによる対テロ・アフガニスタン戦争の影響が時系列変化に顕著に表れている。また、アフリカで増えるのは植民地解放戦争、スーダン危機、ソマリアやルワンダ・ブルンジ・コンゴの内戦などである。南北アメリカにおいてはほぼ戦争がなかった。欧州ではユーゴスラヴィア紛争、中東地域では中東戦争やシリア内戦などの影響がグラフに表れていると考えられる。

（出典：多湖淳『戦争とは何か』中公新書、2020年。問題作成の都合で、一部を省略し、また一部表現を変えたところがある。）

問題文B

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

※この部分は、著作権の関係により掲載できません。

問題文C

※この部分は、著作権の関係により掲載できません。

※この部分は、著作権の関係により掲載できません。

- 1 問題文Aの ① に入る文章として最も不適切なものを、以下の選択肢から1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
- イ. 政府が戦争ではなく社会福祉に資金を使えば、国民はより幸せになるはずである。
 - ロ. 政府が社会の幸福を最大化するために意思決定する時間が、戦争をめぐる意思決定のためにとられてしまう。
 - ハ. 政府は莫大な戦争費用をかけることによって、国民の支持を失うはずである。
 - ニ. 政府が戦争に資金を使うことにより、国民の健康増進のための研究開発支援の費用が削減されてしまう。
- 2 問題文Aの下線部(1)に関して、著者は戦争のコストにはどのようなものがあり、それに対して交渉はどのような利点があると述べているか。それを記述解答用紙①に80字以内で記述せよ。
- 3 問題文Aの下線部(2)に関して、アジア・オセアニアのグラフと南北アメリカのグラフの組み合わせ（順不同）を以下の選択肢から1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
- イ. (a) (c)
 - ロ. (a) (d)
 - ハ. (b) (d)
 - ニ. (b) (e)
 - ホ. (c) (e)
- 4 問題文Bの ② に入る文の内容として最も適切なものを、以下の選択肢から1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
- イ. 戦争開始の判断は戦争が生み出す利益の正確な計算に基づいており、国家体制は関係ないからである。
 - ロ. ロシアとウクライナはかつて旧ソ連に属し、どちらも権威主義国家に分類されるからである。
 - ハ. 歴史的には、ベトナム戦争のように民主主義国家が他国を侵略した事例の方が圧倒的に多いからである。
 - ニ. 民主主義国家であろうと、権威主義国家であろうと侵略行為は断じて許されないからである。
 - ホ. ウクライナも同国に住むロシア系住民に対しナチスのような残虐行為を繰り返していた、とロシアが主張していたからである。
- 5 問題文Bの ③ と ④ にそれぞれ最もよくあてはまる言葉2つを問題文Cから探し、記述解答用紙①にいずれも7文字以内で記述せよ。
- 6 問題文Cの ⑤ ～ ⑨ に最もよくあてはまる語を、それぞれ以下から1つずつ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
- イ. 二律背反
 - ロ. バランス
 - ハ. 一長一短
 - ニ. 二者択一
 - ホ. 中間
- 7 問題文Cの下線部(3)の①よりも②に近い形態で終結したとみなされる戦争の事例を、以下の選択肢から2つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
- イ. 第二次世界大戦で、連合国はナチス・ドイツからの無条件降伏を勝ち取るまで戦った。
 - ロ. 朝鮮戦争で、アメリカは韓国による朝鮮統一を望んだが、中国が軍隊を派遣した後、アメリカを含む国連軍は北朝鮮側と休戦協定を締結した。
 - ハ. 湾岸戦争で、アメリカと多国籍軍はフセイン体制の自壊を予想したため、イラク軍のクウェート撤退をもって停戦した。
 - ニ. 大量破壊兵器をイラクが保有していると誤認したアメリカは、有志連合と共にイラク戦争でフセイン体制を打倒した。

Ⅱ 問題文 A・B を読んで、下記の問い 1～8 に答えよ。(40点)

問題文 A

※この部分は、著作権の関係により掲載できません。

※この部分は、著作権の関係により掲載できません。

問題文 B

While the recent surge in refugees has brought attention to migration issues, there is already a large population of migrants living in advanced economies, and migration continues to be on the rise. In many advanced economies, migrants constitute 15–20% of the adult population, and this number reaches 30% in some Western countries. Migrants have accounted for half the growth in the working-age population of advanced economies between 1990 and 2015. And the United Nations projects that without further migration, the working-age population would decline in most advanced economies over the next 15 years, due to population ageing. These large numbers suggest that migrants can potentially have a significant impact on host economies.

However, migration is a politically difficult issue and the rhetoric surrounding it has turned more negative in recent years. Public sentiment in advanced economies is actually much more negative when it comes to immigration than to trade. A careful examination of the impact of migration on host economies is thus critical.

There are at least two potential reasons for the negative rhetoric. (B)

Much less is known, however, about the impact of immigration on the long-term prosperity of receiving economies, as measured by GDP per capita³. This impact can go through two channels. First, as migrants are mostly of working age, migration increases the share of the working-age population. If migrants are integrated in the labor market and are employed productively, this can boost GDP per capita. Second (and much less discussed), migration can also affect labor productivity. On the one hand, immigration can lower labor productivity, at least initially, as the entry of new labor reduces the available physical capital per worker, or if migrants are less educated on average than natives. On the other hand, the microeconomic literature suggests that migrants can increase productivity by increasing the diversity of skills and ideas, so that their specializations work together, thus encouraging the

upgrading of natives' skills.

In a new paper, we examine the long-term effects of immigration at the macro level, specifically on the GDP per capita and labor productivity of receiving advanced economies.

We find that migrants help increase income levels in host advanced economies, and this effect is both statistically and economically significant. Our estimates suggest that a one percentage point increase in the share of migrants in the adult population (the average annual (C) is 0.2 percentage point) can (D) GDP per capita by up to 2% in the (E) run. Moreover, this effect comes mainly through an increase in labor productivity and, to a (F) extent, through the more standard channel of an increase in the ratio of working-age to total population.

We find that both high- and low-skill migrants raise labor productivity. There is no evidence of physical or human capital is significantly reduced, because investment adjusts over time to the larger pool of workers, and migrants are increasingly high-skilled. Instead, our results suggest that the complementarities that earlier analyses uncovered mostly at the micro level are also relevant at the macro level. The evidence from the microeconomic literature suggests that the positive productivity effects come from increased technological advancement and human capital. High-skilled migrants contribute to productivity directly, including through innovation, and indirectly through their positive spillovers on native workers. Low- and medium-skilled migrants can also contribute to the total overall productivity, to the extent that their skills are complementary to those of natives, promoting career shifts and task specialization. For instance:

- Migrants can take jobs in sectors for which natives are in short supply, such as in agriculture, nursing, housekeeping, and landscaping. Without migrants, (G).
- When migrants take up more manual routine jobs, natives move to perform more complex tasks (associated with abstract and communication skills), which promotes their skill upgrading.
- Last but not least, there are complementarities between low-skilled migrants and high-skilled native females. In fact, we find empirical support for this so-called 'nanny effect'—when low-skilled migrants are available to work as household help or “nannies.” In practice, this effect is realized through greater availability of childcare and household services, resulting in native women, especially those with higher skills—increase their labor supply.

An increase in average income per capita does not necessarily guarantee that the broad population is better off. If all the income gains were captured by companies' top executives and shareholders, (H) Our analysis finds, however, that the gains from immigration are broadly shared across the population. Migration increases the average income per capita of both the bottom 90% and the top 10% of earners, even though high-skilled migration benefits more top earners—possibly because of increased benefits of cooperation between migrants and natives with high skills. Moreover, the Gini coefficient⁴—a broad measure of income inequality within the bottom 90% of earners—is not affected by the migrant share.

(出典：Ksenia Koloskova, Sweta C. Saxena, Florence Jaumotte. “Immigration and economic prosperity,” in *VOXEU*, January 12, 2017. 問題作成の都合で、一部省略し、また一部表現を変えたところがある。)

※出典は下記に記載しております。

³ GDP per capita: 一人あたり国内総生産 (GDP)

⁴ Gini coefficient: ジニ係数

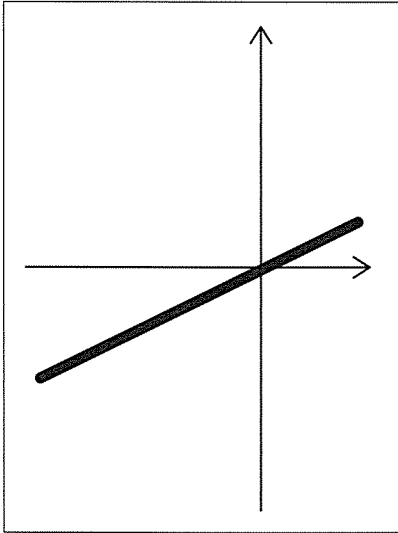
※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

Koloskova, Ksenia, Sweta C. Saxena, and Florence Jaumotte. 2017. "Immigration and Economic Prosperity." *VoxEU* – Centre for Economic Policy Research, January 12. <https://cepr.org/voxeu/columns/immigration-and-economic-prosperity>.

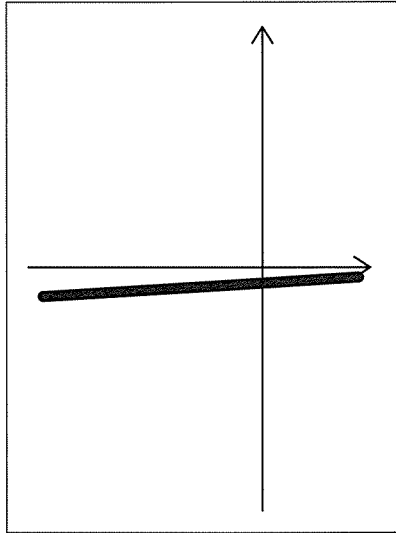
- 1 本文中の (A) に入る単語として最も適切なものを選択肢 (a) ～ (e) の中から1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
- (a) account
 - (b) care
 - (c) imply
 - (d) matter
 - (e) work
- 2 本文中の (B) に入る以下の5つの文について、入る順番として最も適当なものに並び替え、1番目と3番目となる文を、それぞれ選択肢 (a) ～ (e) の中から1つずつ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
- (a) However, some find a negative impact on the wages of low-skilled workers.
 - (b) Indeed, surveys in Europe show that personal concerns over the compositional effects of migration—such as language and culture—matter much more to people than economic concerns such as jobs.
 - (c) To start, it has been argued that migrants can displace native workers in the labor market, or lower their wages.
 - (d) Nonetheless, migration has also been associated with social tensions—in part related to differences in culture and language—when migrants find it difficult to integrate in the labor market and in society.
 - (e) On the contrary, most studies find only a limited effect of migration on the average wages and employment of native workers.
- 3 本文中の (C) (D) (E) (F) に入るものとして最も適切な組み合わせを選択肢 (a) ～ (d) の中から1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
- (a) (C) increase - (D) raise - (E) lesser - (F) long
 - (b) (C) increase - (D) raise - (E) long - (F) lesser
 - (c) (C) raise - (D) increase - (E) lesser - (F) long
 - (d) (C) raise - (D) increase - (E) long - (F) lesser
- 4 本文中の (G) に入る内容について、記述解答用紙①の解答欄に日本語で40字以内で記せ。その際に、以下の4つのカギ括弧内のキーワードをすべて使用すること。ただし、使用する順番は任意とする。
- キーワード：「供給量」「現地住民」「低下」「費用」
- 5 本文中の (H) に入る文として最も適切なものを選択肢 (a) ～ (f) の中から1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
- (a) the broad population might benefit and could actually be better off.
 - (b) the broad population might benefit and could actually be the same.
 - (c) the broad population might benefit and could actually be worse off.
 - (d) the broad population might not benefit and could actually be better off.
 - (e) the broad population might not benefit and could actually be the same.
 - (f) the broad population might not benefit and could actually be worse off.

- 6 本文に照らし合わせて、殺人事件の犯罪率と地域の非正規移民数の関係を示すグラフとして、最も適切なものを選択肢（a）～（e）の中から1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。なおグラフの縦軸は犯罪率の変化、横軸は非正規移民数の変化、縦軸と横軸の交点はゼロを示している。

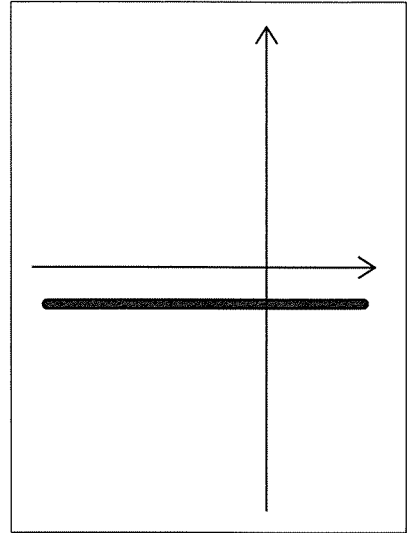
（a）



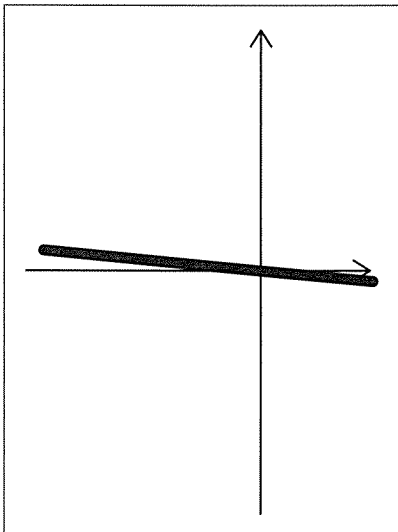
（b）



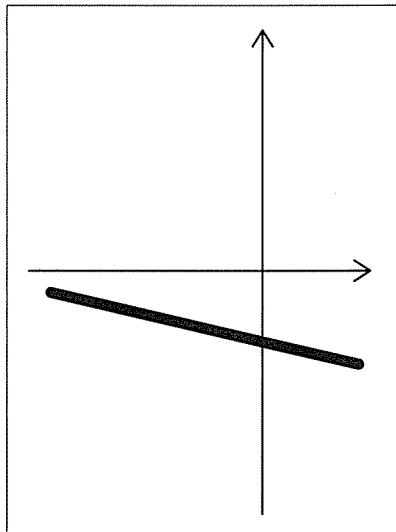
（c）



（d）



（e）



- 7 本文の主張をまとめたものとして最も適切なものを選択肢（a）～（e）の中から1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

- （a） Areas with more unauthorized immigration appeared to have increased incidences of property crime, although the difference was small and uncertain.
- （b） Research indicates that increases in the number of undocumented immigrants do not result in more crime, and actually result in less.
- （c） Some people worry that immigrants commit more violent crimes, but in fact, an increased number of these people is often associated with less of this type of crime.
- （d） Some research suggests that socioeconomic pressures predict less of an increase in crime than immigration does.
- （e） Studies have found that if there are more undocumented immigrants in a community, job competition will increase.

- 8 以下の選択肢 (a) ~ (e) は、本文に対してソーシャルメディアに書き込まれた仮想的な批判コメントである。本文の内容について最も適切な批判となっているものを1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
- (a) Even if an increase in immigration leads to higher average incomes, that's mostly for the top 10%, so we, the bottom 90% of workers, will lose out.
 - (b) Isn't the idea of welcoming low-skilled migrants for a "nanny effect" just increasing foreign "slaves" for our women's advancement? I find this morally wrong.
 - (c) More immigrants mean less crime and more prosperity for the country? If so, why are the countries of Europe in such a mess?
 - (d) They say that a 1% increase in migration will increase GDP by 2%, but if we accept more and more immigrants, the working-age population will be reduced to only immigrants.
 - (e) When property crime is already 94 per 100,000 people, why do we have to live with a 1% increase in that level when immigration increases?

- Ⅲ The number of foreign residents is increasing in Japan. Identify a potential social tension that may arise with this trend, and discuss one policy that could be implemented by a local government to address it. You must write your answer in English in the provided box on your written answer sheet. (記述解答用紙②) (15点)

[END OF TEST]

注 意

(1) 所定の欄以外に番号・氏名を書いてはならない。
また、解答欄以外には何も書いてはならない。

(2) 解答はすべてHBの黒鉛筆またはHBのシャープ
ペンシルを使用すること。

〈2025 R 07197011〉					
受験 番号	万	千	百	十	一
氏 名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名
を記入してはならない。記入
した解答用紙は採点の対象外
となる場合がある。

〈2025 R07197011〉					
受験 番号	万	千	百	十	一
氏 名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名
を記入してはならない。記入
した解答用紙は採点の対象外
となる場合がある。

採 点 欄

(この欄に書き入れてはならない)

I 2

I 5

③		7
---	--	---

④		7
---	--	---

II 4

I 2

--	--

I 5

--	--

II 4

--	--

総合問題
記述解答用紙②

注 意

- (1) 所定の欄以外に番号・氏名を書いてはならない。
また、解答欄以外には何も書いてはならない。
- (2) 解答はすべてHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルを使用すること。

<2025 R 07197011>

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名
を記入してはならない。記入
した解答用紙は採点の対象外
となる場合がある。

<2025 R 07197011>

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名
を記入してはならない。記入
した解答用紙は採点の対象外
となる場合がある。

総合問題 ②

採 點 欄

(この欄に書き入れてはならない)

III

[illegible]

III

--	--